

昭和十二年十二月六日
至昭和十三年十二月九日

方山附近戦闘詳報

第四號

歩兵第百五十聯隊

2243

方山附近戰鬥詳報

步兵第百五聯隊長
陸軍歩兵中佐山本重真

第一戰鬥前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

一、當時ニ於ケル彼我一般ノ態勢附圖第一ノ如シ
二、聯隊ハ侯家巷ニ露営中十二月五日午後十時頃尤記要旨
ノ旅團命令ヲ受領ス

命令要旨

- 一、敵情ニ関シテハ新報ヲ得ス
 - 二、旅團ハ方山方面攻撃ノ目的ヲ以テ明六日地歩ヲ北方ニ
推進シテ引續キ敵情地形ヲ偵察セントス
 - 三、歩兵第百十五聯隊ハ方山若クハ其以東ノ地区ニ攻撃ヲ
重真ヲ指向スル場合ヲ顧慮シ明早朝現在地出發湖
熟鎮附近ニ前進シ敵情ノ地形ヲ偵察スヘシ
- 第三大隊(三中隊欠)ヲ復歸セシム

四歩兵第百五十聯隊第二大隊ハ方山方面攻撃ノ目的ヲ以テ明早朝現在地出發陳家村西北側橋梁附近ニ前進シ高工兵中隊ト協力シ水路ヨリ搜索シ據点ヲ推進セシメテ敵情地形ヲ偵察スヘシ

午前十時工兵中隊ヲシテ同橋梁附近ニ於テ連絡セシム五歩兵第百五十聯隊主力ハ午前八時現在地出發漂水湖熟鎮道ヲ魏家庄ニ向ヒ前進スヘシ
大工兵中隊ハ現任務ヲ續行スヘシ

旅團長 奥少將

右命令ニ基キ六日出發関シテ記聯隊命令ヲ下達ス

歩兵第百五十聯隊命令 十二月六日午前四時 於侯家巷

一敵ノ首府タル南京西要塞ハ北方約十里ニシテ諸情報ニ依
レテ軍事委員會及軍後方機關ハ退却セルモノ、如ク其他
ノ狀況ハ不詳ナリ

尚北方大里、方山ハ敵、本防禦線一部ニシテ若干兵備
アルモノト豫想セラレ

師團ハ南京ニ向テ追撃ヲ急キ本六日秣陵関ニ向テ急進ス

輿旅團ハ主カラ以テ湖熟鎮ニ向テ急進ス

二 聯隊ハ旅團本隊トナリ本六日湖熟鎮ニ向テ急進セントス

三 諸隊ハ午前七時五十分迄ニ宿營地北端ヲ先頭トシテ、

序列ヲ以テ集合スヘシ

ハ IMg(1/2) 500m ☆ 〇 ITL 5III 10 9 IA III Mg R Mg 十 口 4(1/3)

四 余ハ午前七時五十分宿營地北端ニ在リ

聯隊長 山本歩兵中佐

第二 戦闘經過、概要

一 午前八時豫定、如ク出發シ上海派遣軍ト、作戰地境、西
端タル赤山ヲ右ニ見テ、行進ス當時赤山以西ノ作戰地境ハ

未タ命令ヲ受ケサリキ午前十一時尖兵カ郭莊廟東南約ニ
新附近ニ差掛ルヤ郭莊廟附近ヨリ突如數十發ノ射撃ヲ
受テ尖兵ハ直ケ展開シ獨斷五六十名ノ此ノ敵ヲ攻撃ス
交戦約一時間シテ敵ハ十四五ノ死体ヲ遺棄シテ西北ニ退
却セリ我ニ損害ナシ尖兵ハ唐西村附近ニ部隊ヲ集結シ
午後一時同地ヲ出發シ依然湖熟鎮ニ向ヒ急進ス
當時旅團ノ先遣隊タル歩兵第五聯隊ハ進路ヲ異ニシ行
進遅延セルモノ、如ク連絡ニカメシモ連絡トレス
二午後二時三十分頃尖兵中隊ハ湖熟鎮南側ニ於テ再ヒ自動
火器ヲ有スル約一ヶ中隊ノ敵ヨリ射撃ヲ受テ然レトモ尖兵中隊
ノ機敏且適切ナル攻撃ヨリ敵ハ晩クモ退却ヲ余儀ナクセラレ
北方ニ後退ス湖熟鎮南側一帯ニハ敵ノ堅固ナル既設陣地
アリ之ヲ一舉ニ獲得セルハ最モ有利ナリキ

旅團司令部ハ湖熟鎮ノ村落内ニ一時停止ス此ノ間聯隊

ハ逃クル敵ヲ追撃中、部落内ヲ南北ニ連スル巾約四十米ノ
「クリーク」ノ橋梁完全ニ破壊セラレ一時停止スルノ已ムナキニ至ル
聯隊長ハ直ニ尖兵ノ發見セル一艘ノ舟ヲ利用シテ渡河ヲ開
始セシムルト共ニ所在ノ丸太戸板等ヲ以テ應急的架橋ヲ命ス
聯隊本部下士官傳令協力シ機敏ニ作業ヲ開始シ所持セ
ル麻繩等ヲ利用シ忽ケ一列通過ニ支障ナク橋梁ヲ架設シ
得テリ茲ニ於テ聯隊長ハ歩兵砲小行李等ハ舟ヲ利用シ
其他ハ橋梁ヨリ速ニ湖熟鎮北端ニ集結スヘク處置シ自
ラ先頭ニ立ケテ部落北端自動車停留所ニ位置シ遂次到
着スル各部隊ヲ掌握ス

此ノ頃友軍機數機ハ東方ヨリ飛來シ斜陽ニ銀翼ヲ閃メカ
シ、北方着化鎮ト覺シキ上空ニ於テ盛ニ急降下爆撃ヲ
敢行シ、アキラ望見シ此ノ附近ニ相當有力ナル敵兵伏在シテ
ルヲ判断シアリ

午後二時五十分兵力、大部集結シ了ル

此頃本早朝宿营地ヲ出發シタル歩兵第百十五聯隊ハ邊

レテ南方温家庄方向ヨリ湖熟鎮ニ進入シテ見ル

三聯隊主力ノ集結ヲ終ル頃尤記要旨、旅團命令ヲ受領ス

旅團命令要旨 十一月六日午後二時三十分 於湖熟鎮

一約一〇〇名ノ敵ハ本朝南京ニ向ヒ退却セリ

二旅團ハ南京洪華門ニ向ヒ追撃、爲先ス清化鎮ニ向ヒ前

進セントス

三歩兵第百五十聯隊ハ先ツ清化鎮ニ向ヒ敵ヲ急追スヘシ

外畧ス

右命令ニ基キ聯隊ハ尤、命令ヲ下達ス

歩兵第百五十聯隊命令 十一月六日午後三時 於湖熟鎮

一敵ハ本朝南京方向ニ約一〇〇名退却セリ

旅團ハ南京、洪華門（洪武門）ニ向ヒ追撃ノタメ先ツ清

化鎮ニ向ヒ前進ス

ニ聯隊ハ先ツ溜化鎮ニ向ヒ敵ヲ追撃セントス

三第三大隊長ハ1011 Img (後刻 III mg ト交代セシム) 平射砲一分隊

ヲ指揮シ前衛トナリ本隊ノ前方ハ00米ヲ先ツ溜化鎮ニ

向ヒ急進スヘシ

四爾余ノ諸隊ハ本隊トナリ先ノ順序ヲ以テ前進スヘシ

1/3 9 10 11 12 13 14
ITL 9(1/2) 4(1/2) III Mg IA Rmg 1/4

五余ハ湖熟鎮ニ在リ後本隊ノ先頭ニ在リテ行進ス

聯隊長 山本歩兵中佐

四右命令ヲ下達シ重火器ノ到着ヲ待ケ本隊ハ午後四時前衛

ノ後方ヲ前進ス途中路傍ニ數十俵ノ白米遺棄シテ散見

シ敵ハ此辺一帶ノ部落ヨリ徵發セルモ我空軍ノ爆破ト地上追

撃ヲ懼セラナシ道ヲ走セシナラン其量ノ夥多ナルヨリ相當ノ兵

力ナルヘキハ容易ニ判断セラレタリ

五前衛ハ途中少数敵ト遭遇之ヲ撃退續々前進中午後五時三十分南関頭東南方約一軒附近ニ達スルマ突如同部落ヨリ自動火器及小銃ノ急射撃ヲ受テ前衛ハ機ヲ失セス之ニ應射シ此敵ヲ西北方ニ撃退ス

聯隊長ハ之ニ跟随シ南関頭北端ニ至リ南関頭ニ兵力ヲ集結セルモ未ク敵陣地ノ全貌ヲ明セス通信班長中條少尉ヲテ前衛司令官ニ連絡セシム本道上附近ニ機関銃ヲ有スル約二ヶ中隊陣地ヲ固守シテ前衛司令官ハ敵ノ右側ヲ迂回シ攻撃スルノ決心ナルヲ知り聯隊長之ヲ是認ス

(附録第一参照)

右報告ニ基キ聯隊長ハ次ノ如ク處置ス

一 第九中隊長ノ指揮スル一小隊ヲ第三大隊長ノ指揮下ニ復ス

2 歩兵砲(九二式)ヲシテ本道西側ニ陣地ヲ占領セシメ前衛ノ戦闘ニ協力

3 通信班ヲシテ聯隊本部ヲ基點トシテ前衛司令官及旅團司令部門ニ有線連絡

4 其他ノ諸隊ハ現在地附近ニ集結シ後命ヲ待タシム

日ハ西山ニ没シ暮靄漸ク濃ク方山ハ夕闇ノ中ニ模糊タル頃前衛方面ニハ彼我ノ銃聲盛ナリ

既ニシテ四面暗黒トナリ敵情地形ヲ辨セサルモ堅固ナル數線陣地ニ優勢ナル敵更ニ増加シ且第九師團トノ友軍相撃ヲモ顧慮セラルヲ以テ全力ノ夜襲ヲ断念シ前衛ヲシテ現在ノ線ヲ確保セシメ現態勢ヲ以テ明拂曉以後ノ攻撃ヲ準備スルニ決シ旅團長ニ之ヲ報告シ前衛ニ之レカ命令ヲ傳達セシメントセシモ連絡一時断絶ス時ニ午後九時ニシテ當時迄ニ於ケル戦闘經過ノ概要並知リ得タル敵情附圖第ニノ如シ

有線通信網構成ヲ命セラルタル通信年ハ前衛司令官ノ位置ニ達シ得ス次第ニ通信年ハ兵数ヲ増加シ如何ニ焦慮スルモ術ナク困却シアル時第三大隊本部宮坂伍長兵二名ヲ以テ連絡ニ來リ大隊長ハ第十中隊ヲ指揮シ敵ノ右側背ニ向ヒ前進中ナルヲ報告ス

爾後通信班長ハ此傳令ヲ利用シ第三大隊長ノ許ニ電話ヲ誘導スルコトニ努メタルモ第三大隊本部既ニ移動シアリタル爲連絡ニ得ス已ムナリ第十中隊ノ位置ニ通信所ヲ定メ之ト連絡セシム然ルニ午後十一時頃第三大隊本部森元伍長ハ再ヒ連絡ニ來リ果敢ニ前進セル第三大隊長及第十中隊ハ敵増加ニ依リ敵中ニ在ルヲ報告ス

茲ニ於テ聯隊長ハ左記如キ要旨命令ヲ傳達セシム

要旨

命令

十二月六日午後十一時於南側頭

一 貴官ノ果敢ナル攻撃ニ對シ其ノ功ヲ多トス

二 聯隊ハ明拂曉歩兵砲機関銃協力ノ下ニ當面ノ敵陣

地ヲ攻撃スルノ企圖ヲ有ス

三 貴官ハ第十一中隊ヲ第十中隊ノ占領セル線ノ右ニ連繋
スル如ク陣地ヲ占領セシメ至嚴ナル警戒ヲ下ニ明拂曉ノ攻
撃ヲ準備スヘシ

四 敵ノ陣地ハ本防禦線ニ連繋スヘキモノト思考シ得ヘク高廟
附近ニモ有力ナル敵陣地ヲルモノト判断セラル即ケ現在貴
官ハ其ノ位置ニ在リテ明拂曉ノ攻撃ヲ成功ハ覺束ナキモ
ノト思考ス

五 既ニ貴官ノ許ニ派遣セル第九中隊長ノ指揮スル一小隊ハ
目下第十中隊ノ位置ニ在リ掌握セラレヘシ

六 通信網構成ヲ實施セルモ成ラズ現在第十中隊ノ位置ニ
構成シテ

七 第一線ノ整理完了セハ速ニ聯隊本部ニ報告スヘシ

聯隊長傳令ノ勞ヲ謝シ、之ヲ歸還セシム

夜ハ次第ニ更クルモ敵ノ射撃ハ益々盛ニシテ凄愴ヲ極ム

六十二月七日午前二時三十分旅團ハ高廟方山中間地区ヲ山

西村ニ前進スヘキ要旨命令ヲ受領ス午前三時三十分森

元伍長曩ニ出シタル宮坂伍長ト前後ニ聯隊長ノ許ニ來

リ昨夜配兵ナカリシ陣地ハ悉ク敵ハ配兵シ第三大本部全

ク敵中ニ在リテ如何ニスルモ潛入連絡シ得スト出發以來苦

バヲ報ス茲ニ於テ聯隊長ハ旅團命令ニ基テ尤記聯隊

命令ヲ下達ス

歩兵第百五十聯隊命令十二月七日午前四時 於南蘭頭

一、敵情ニ関シテハ諸官ノ知レル通り、旅團ハ本七日清化鎮

方山中間地區ヨリ南京東南角ニ向ヒ敵ヲ追撃ス

歩兵第百十五聯隊ハ山西村(南京東南方約四軒)ニ至リ南

京方向ノ敵情地形ヲ偵察ス

二 聯隊ハ成ルヘク速ニ兵力ヲ集結シ旅團主力ニ追及セントス
三 各隊ハ尤記序列ヲ以テ前進ス

4(5) Img
9 ITL
III Mgt
10(5) Rmg
iA
200m
1/10
1/2 III Mgt

四 集結時刻及第三大隊本部及第十中隊ニ関シテ別ニ示ス
五 余聯隊主力ノ前方ニ在リテ行進ス

聯隊長 山本歩兵中佐

右命令ノ外聯隊長ハ尤記ノ命令ヲ傳令ニ托シ激勵シテ
出發セシム

命令要旨
十二月七日午前四時
於南關頭

一 旅團ハ高廟ト方山ノ中間地区ヲ高廟西方約三軒ノ

山西村ヲ經テ北方ニ前進ス

二 聯隊ハ午前五時兵力ヲ集結シ旅團ニ追及ス

三 貴官ハ第十中隊ヲ指揮シ敵ヲ警戒シテ即刻聯隊ニ追

及スヘシ

七午前七時三十分第三大隊長ハ大隊本部及第十中隊ノ約半部ヲ率ヒテ聯隊ニ合シ第十中隊ノ残余ハ追テ到着スヘキヲ報告ス聯隊長ハ其ノ勞ヲ謝シ準備セル食餌ヲ攝ラシメ聯隊主力ハ直ニ旅團ニ追及スヘク處置ス

當時第九師團砲兵、榴霰彈聯隊本部附近ニ盛ニ炸裂シ昨日來、我攻撃ハ同師團正面ノ敵ノ側面ニ至大ノ脅威ヲ與ヘ其ノ攻撃ヲ容易ナラシメタリ

午前七時五十分聯隊ハ轉進ヲ開始シ午前九時頃在前西郷旅團主力ニ合スルヲ得タリ

之ヨリ稍先第三大隊長ハ第十中隊ノ殘約半部カ連絡ヲ失シ同隊ハ敵ノ重圍ニ陥レルヲ知リ聯隊長承認ノ下ニ第九中隊第十中隊ノ各一小隊及第三機關銃隊ヲ率ヒテ救援ニ赴キ午後八時收容ヲ完了ス

八聯隊長ハ現在地ニ於テ旅團長ニ狀況ヲ報告シ爾後、行
動ニ付キ細部、連絡ヲナシ且歩兵第百五十聯隊ハ現在地
ニ兵力ノ集結ヲ完結スヘキ命令ヲ受ケリ

九聯隊長ハ歩兵砲ヲシテ旅團ノ前進ヲ掩護セシメ歩兵第百
五十聯隊ハ午前十時四地ヲ超ヘテ前進シ旅團司令部之ニ
續行シ敵ノ猛射下ニ「クリーク」ノ大鼓橋ヲ各個躍進シ閣
始スルモ前進意ノ如クナラス

午前十一時稍過ヨリ下黃驛附近ノ掩蓋陣地ヨリ、敵ノ火力
ハ愈々猛烈ヲ加ヘ刺ヘ南方解溪鎮方向ニ在ル數個ノ「ト
ケカ」ヨリ熾烈ナル側防火ヲ受ケ旅團司令部ノ前進ハ益々
困難トナリ午後四時ニ至ルモ完全ニ通過ヲ了セサルノ情況ニ
在リ此ノ間聯隊長ハ明拂曉以後、爲中西郷後西郷ノ台
上ヨリ敵陣地ヲ偵察シ後圖ヲ畫策セリ當時第九師團ハ
涪化鎮ニ猛攻ヲ加ヘ「アルモ」未ク其ノ歩兵ノ進出ヲ見ス

又聯隊ハ午後ニ至リ屢ニ飛來セル友軍飛行機ニ對シテ下黄
壘解溪鎮附近敵陣地ノ爆撃ヲ要求シ旅團ノ攻撃ヲ進
捗ヲ企圖セシモ意ヲ果サス旅團ノ第一線ハ北西及南ノ三
方ヨリ敵火ヲ受ケ北背後ハ「クリーク」ニ妨ケラレテ攻撃ヲ進捗
至難ノ狀況ニテリテ日没トナル聯隊長ハ獨斷現在ノ態勢
ヲ以テ明未明ノ攻撃ヲ前進ヲ準備スルニ決ス

○同夜聯隊長ハ旅團長ニ尤ノ要旨ノ意見ヲ具申ス

敵ハ本防禦線上ノ據点タル易山方山間ニ尚ホ勢ヲモ

三線ニ亘ル縦深陣地帯ヲ編成シ頑強ニ守備スルモノト判

断セララル旅團ハ現在砲兵ヲ欠キ現在ノ兵力地形ニ於テ

孤立之ニ猪突セントスルモ徒ニ全滅アルニシテ師團ノ攻撃

ニ協力ノ効果ナシ故ニ本夜暗ヲ利用シ旅團ノ全カヲ後

西郷中西郷前西郷ノ線ニ集結シ後圖ヲ策スルヲ要シ當

面ヨリノ攻撃ヲ續行センカ爲ニ第九師團ノ進出ヲ待ケ之ニ

連繫レテ順調ナル攻撃ヲ進捗ヲ求メ概ネ三日間ニ後端ニ
進出ヲ圖ルヲ要セン

二十二月八日午前三時頃関中尉ハ夜間錯雜地而モ敵彈雨
飛スル中ヲ勇敢ニ身ヲ挺シテ死記旅團命令ヲ傳達セリ

步兵第百十八旅團命令 十二月八日午前二時
於上黄野

一 步兵第百十五聯隊ハ昨七日午後以降接引庵附近ノ敵ヲ
攻撃中ナリ 該敵ハ尚頑強ニ抵抗中ナリ

二 旅團ハ速ニ潛行的ニ敵本防禦線地帯ヲ突破シ喜雀山
附近ニ進出シ爾後重点ヲ南京東南角曹家門方面ニ
指向シ直接師團主力ノ戦闘ヲ容易ナラシメントス

三 步兵第百十五聯隊ハ萬難ヲ排シテ攻撃ヲ續行スヘシ

四 步兵第百十五聯隊ハ本日未明迄ニ現旅團司令部位
置ニ其ノ兵力ヲ集結スヘシ

步兵第百十五聯隊歩兵砲 隊 本未明迄ニ步兵第百十五

聯隊、後方陣地ヲ占領シ同隊、攻撃ニ直接協力スヘシ
 射撃、閉シテ同聯隊長ト密ニ連絡スルヲ要ス
 五衛生隊三分一ハ速ニ現在ノ負傷者ヲ前西郷ニ收容シ主
 力ハ本未明迄ニ現旅團司令部位置附近ニ集結ヲ完了ス
 ヘシ騎兵小隊ハ前西郷繙帶所ヲ掩護ニ任スヘシ
 六余ハ依然現在地ニ在リ爾後歩兵第百十五聯隊ノ後方ヲ
 前進ス

旅團長 奥少將

茲ニ於テ聯隊長ハ猶豫セハ機ヲ失スル虞アルヲ以テ右命
 令ニ基キ左記聯隊命令ヲ下達ス

歩兵第百五十聯隊命令 十一月八日午前四時 於中西郷

- 一、歩兵第百十五聯隊ハ接引庵附近ニ於テ激戰中ナリ
- 二、聯隊ハ本日拂曉迄ニ「クリー」ヲ渡河シ上黄野旅團
 司令部ノ位置ニ穩密ニ集結シ且所要ノ工事ヲナセントス

三 歩兵砲隊(第四中隊)之分隊ヲ附スルハ午前五時半現在地ヲ出發シ午前六時三十分迄ニ歩兵第百十五聯隊本部ニ至リ同聯隊ノ戦闘ニ協カスヘシ 特ニ彈藥ヲ皆部用スヘシ
四 爾余ノ部隊ハ午前四時三十分出發概ネ左ノ順序ヲ以テ
クリークニ通過シ旅團司令部ノ位置ニ至ルヘシ
細部ハ現地ニ於テ指示ス
前進ニ際シテハ敵彈ノ間斷ヲ巧ニ利用スルヲ要ス

4 日 0 JL Rmg Img III 8 9 10 小行李(彈藥發煙筒)

先ツ戰列部隊ヲ前進セシメ各部隊ノ直接戦闘ニ關係
ナキ馬匹苦力等ハ前西郷ノ繃帶所ニ殘置シ騎兵小隊長
ノ指示ヲ受ケシムヘシ
五 第十一中隊(一小隊欠)ハ前西郷ニ於テ死傷者ノ處置完了
次第ニ分隊ヲ繃帶所ニ殘置シ聯隊主力ニ追及スヘシ

六余ハ午前六時三十分旅團司令部位置ニ在リ

聯隊長 山本歩兵中佐

豫定時刻トナルヤ星明リニ微カニ見ユル畦道ヲ辿リ聯隊ハ足音ヲ忍ヒ漸ク進ム昨日來敵ノ火力ヲ集中シタル太鼓橋ニ差掛ルモ幸ヒ敵彈ヲ受ケルコトナクテ通過ヲ了リ各隊ハ概テ順調ニ豫定位置ニ集結ヲ了ル然ルニ旅團司令部附近ハ地物ニ乏シク天明後敵彈ヲ蒙ルノ虞大且工事量ヲ節約スルニ不適當ナルヲ以テ拂曉ヲ利用シ上黄野部落ヲ利用スルニ決シ位置ヲ偵察シタル後移動シ附圖第四ノ如ク工事ヲ實施セシメ通信班ヲシテ旅團司令部ト聯隊本部間ノ有線連絡ニ任セシム

三午前十一時十分左記要旨ノ旅團命令ヲ受領ス

命令 要旨 七頁

一敵ハ昨日來歩兵第百十五聯隊ノ力攻ヲ受ケ動搖ノ

徴アリ

二旅團ハ南京南端雨下台ニ於ケル師團主力ノ戦闘ニ直接
参加セントス

三進路ハ現在地ヲ曹王廟ニ向ヒ先ツ出發シ山西ニ至ル
四行軍序列

歩兵第百十五聯隊ハ追撃隊

爾余ハ旅團司令部歩兵第百五十聯隊ノ順序ニ旅團ノ進
路ヲ前進

衛生隊ハ歩兵第百五十聯隊ノ後備ヲ續行

右命令ニ基キ直ニ各隊ヲシテ追撃ヲ準備セシム各隊ハ機
ヲ失セス追撃準備ヲ完了シ前進ノ命令ヲ待ケツテリ正
午頃旅團ヨリ追撃中止ノ電話命令ヲ受領シ現態執力ヲ
以テ待機ス敵ノ狙撃ニ依リ傳令等ノ損害アリ
此頃西方台上ヲ約百名ノ敵兵西北方ニ移動中ナルヲ發

見シ第四中隊長及聯隊機關銃隊ハ一部ヲ以テ祖輕キセシメ
相當ノ損害ヲ與ヘタリ又同時頃第九師團方面ノ銃砲聲
漸次接近シ清化鎮附近ノ敵ノ小移動ヲ認ム

三午後三時三十分頃電話ヲ以テ上海派遣軍ト當師團ノ戰鬥
地境変更ノ爲旅團ハ本日没後兵力ヲ集結シ南京南方
兩下台東側地區ニ前進スヘキ旅團命令ヲ受領シ第四中
隊村上少尉ヲ長トセル將校乍候ヲ派遣シ前進路ノ偵察
ヲナサシメ左記聯隊命令ヲ下達ス

步兵第百五十聯隊命令 十一月八日午後六時
於上黃壘

一上海派遣軍ト師團トノ作戰地境ハ赤山ヨリ方山西側ヲ經
テ武定門附近ニ延長セラル師團主力ハ既ニ將軍山及其
北側高地ノ線ニ進出シタリ
旅團ハ本八日夜暗ヲ利用シ前西郷―秣陵關―高家
庄ヲ經テ兩下台東側地區ニ前進シ師團主力ノ戰鬥ニ

策應ス

二 聯隊ハ本日没ヲ利用シ速ニ前西郷ニ兵力ヲ集結シ爾後
前西郷―張塘―蔡村―秣陵関道ヲ旅團主力ノ先
頭ニ在リテ前進セントス

前西郷迄ノ前進順序ハ別ニ指示ス

三 第四中隊(聯隊機関銃隊ノ小隊ヲ附ス)ハ共兵中隊トナリ前
西郷ヨリ前記道ヲ先ツ秣陵関ニ向ヒ前進スヘシ本隊トノ
距離ハ二百米トス

四 爾余ノ諸隊ハ本隊トス

前西郷ヨリ左ノ序列ヲ以テ前進スヘシ

1/6 10(6) I M_g RM_g (1-4) III (10/12) IA 1/3

五 第十中隊 第十一中隊、各一小隊ハ午後七時前西郷ニ至リ患
者ノ運搬ニ任スヘシ

六余ハ午後七時三十分前西郷ニ在リ爾後本隊ノ先頭ニ在リテ
行進ス

聯隊長 山本歩兵中佐

注意

ノ夜行軍間連絡ヲ絶タサルコト

又音響喫煙火氣ノ使用ヲ嚴禁ス

右命令及注意ニ基キ各隊各兵ハ各準備ニ着キシ或ハ足
袋ヲ穿キ或ハ靴ニ布片又ハ藁ヲ纏フ等音響防止ノ處置

ヲ完全ニシテ日没ヲ待ツ日ハ没シタレトモ上弦ノ月ハ冲天ニ懸リ淡ク

地ヲ照セリ午後七時聯隊ハ漸カトシテ前進ヲ開始ス

歩兵第百十五聯隊方面ニ於テハ依然銃聲盛ナルトモ遠ク

敵彈ノ損害ヲ多クナルモ慮ナクシテ午後八時三十分前西郷ニ

集結ヲ終リ同時頃旅團司令部亦聯隊ニ追及セリ

此頃道路偵察ニ派遣シタル村上將校乍候ヨリ附録第二

如キ報告ヲ受領ス聯隊長ハ兵中隊長タル第四中隊長
ヲシテ步兵第百十五聯隊ノ夕ノ道路標示ヲナスヘク命レ午
後八時三十分前進ヲ開始ス道路ノ景況不良ニシテ前進
意ノ如クナラザリシカ兵ノ注意ニ依リ概テ道路ヲ誤ルコト
ナク午前二時戴六渡ニ達ス

戴六渡ニ至レハ巾約四十米ノ「クリーケー」ニ架セラレタル高サ約十
五米ノ橋梁ハ橋礎ヨリ完全ニ破壊セラレアリ土民ニ絶スモ
附近一帶ノ舟筏ハ南京ニ徵發セラレ比皆無ナリト答テ

依テ現在地附近ニ大休止ヲナシ其ノ間極力舟筏其ノ他渡河
材料蒐集及上下流ノ橋梁ノ搜索ニ努メシムルト共ニ筏橋
ヲ架設スルニ決シ之カ指揮官ヲ第三大隊長ニ命シ旅團ヨリ
通譯一名ヲ配屬セラル諸作候亦土民ノ言ヲ如ク橋梁舟
筏ナキコトヲ報告シ來ル

第三大隊長ハ部下中隊ヨリ所要ノ幹部及兵ヲ便後更

ニ主民ヲ以テ午前七時作業ニ着手シ概テ車馬ヲ通スル筏式
架橋ヲ午前十時完了セリ次テ張公渡ノ橋梁モ破壊セラレ
アルヲ知リ所要ノ幹部以下ヲ先遣シ補修セシメ步兵第百
十五聯隊ヨリ加橋援助部隊來リシモ之ヲ煩スコトナク既ニ
完了シ午後一時張公渡出發午後二時三十分秣陵関ニ
到着シ大休止後旅團命令ニ基キ其ノ集結位置置タル永
慶庵ニ到リ露營ス

第三 戦闘ニ影響ヲ及ボシタル天候氣象地形

一天候

日出ハ午前八時 日没ハ午後六時三十分ニシテ其ノ前後ニ
約一時間薄明ノ時期アリ
本戦闘間晴天續キシテ之ノ如ク遂行上利便多カリレカ月齡
ハ五日前後ニシテ概テ前半夜ハ至近距離ヲ通視シ得單獨
兵ノ行動ニ便ナルモ部隊ハ爲ニ企圖ノ秘匿ニ不便ニシテ

特ニ八日日没後ノ轉進ニハ危險ヲ感ゼタリ

氣温ハ概ネ零度ヲ最下限トシ後半夜及拂曉時稍々寒
冷ヲ覺エタルモ戰鬥上影響スル所少シ後半夜ハ星明
リアリシカ八日夜ノ轉進時ハ暗黒ニシテ道路ノ不良ト相俟
テ連絡ヲ失スルノ虞大ニシテ行動意ノ如クオラス

ニ氣象

朝夕ハ殆ト無風ニシテ時々氣温ノ逆轉ヲ見ルコトアリ

日中ハ東南夜間ハ西北ニ米内外ノ微風アリ煙及斯等利
用ニハ便ナルカ如シ

ニ地形

戰鬥地附近ハ波狀地ニシテ所々クリクアリアリ防禦ホ、タメニハ
恰適ニシテ敵巧ニ之ヲ利用シ所々トテカニ或ハ掩蓋銃坐
ヲ設ケ凹地ヲ側防シアル為戰鬥ノ進捗意ノ如クオラス
前西郷中西郷後西郷附近ハ南北ニ流ル、此附近最高ノ台

地ニシテ七日ニ於ケル死傷者收容及待機間ニ於テハ西方ニ對良
好ナル掩護物ナリ上黃壟附近ハ低地ニシテ敵ノ瞰制ヲ受テ
附近一帶ハ赤山ニシテ樹木ニ立シテ展望及射撃ヲ妨ケス
低地ハ比較的「クリーク」ニ立シカリシカ後西郷上黃壟間ヲ南北ニ通
スル「クリーク」ハ巾約十米ニ過キササル附近一帶ヲ搜索セルモ大敵
橋ノ外橋梁ナリ敵ハ此處ニ火力ヲ集中シ屢々我カ前進ヲ
妨害セリ

第四 彼我ノ兵力

一友軍

歩兵第百五十聯隊本部

通信班

第四中隊

聯隊機關銃隊

第一機關銃中隊（小隊欠）

二敵軍

涪化鎮東側及南側

重火器ヲ有スル歩兵約一大隊遂次増加シテ約二大隊トナル

接引庵上黃野社紅山附近

重火器ヲ有スル歩兵約一大隊後遂次増加シテ約二大隊トナル

蔣介石直系、正規軍ニシテ迫撃手砲機關銃ヲ主体トシテ

編成セラレ裝備優秀訓練徹底シ特ニ防禦戰鬥ニ慣熟

シテリ數線、巧ムル防禦編成ト相俟テ狙撃ニ長シ頑強ナル

抵抗ヲナセリ「トーチカ」或ハ掩蓋ニ據リ優勢ナル迫撃手砲ヲ

有シ數線ニ亘ル既設陣地ヲ利用セルニ對シ我ノ砲ヲ有セサル

ハ攻撃手遂行ヲ困難ナラセムタル主因ナリ

第五 參考トナルベキ所見

歩兵砲隊ノ半部

第三大隊(第十二大隊欠)

- 一 各級指揮官、近距離搜索ハ益々必要ナリ
 - 二 戦闘法ニ於テハ敵、側背ニ對スル攻撃及弱點突破、必要ヲ確認スルモ之カ實施、爲ニハ友軍歩兵重火器裝備ヲ充實シ且友軍砲兵、協力ヲ要シ特ニ兵在セルトケカ及掩蓋機関銃坐ヲ有スル陣地ニ對シテハ配屬砲兵ヲ多クシムルヲ緊要事ト認ム
 - 三 歩兵各種火器、狙撃能力、向上ト各級指揮官、狙撃、適要一段、習熟ヲ要ス
 - 四 不明ナル目標ニ對スル指揮官、目標指示、的確各種火器、沈着精密ナル射撃、實行ハ更ニ向上、餘地アリ
 - 五 支那軍ハ砲兵劣勢ナルモ迫撃砲ヲ多ク裝備セルヲ以テ部隊ヲ密集シ司令部本部、位置ヲ暴露セサル件ニ付更ニ一段、注意ヲ要ス
- 大航空機、地上戦闘ニ對スル協力ハ歩兵攻撃、進捗ニ伴ヒ益々

緊密ナラシムルノ要大ナリ

七、クリーク地帯ニ於ケル戦闘、ソノ歩兵聯隊ニ輕渡河材料ヲ

携行セシムルノ要アリ

八、歩兵中隊ニ重擲彈筒ヲ裝備シ敵迫撃砲ニ對應セシムルヲ

要ス

九、戰場ニ於テ敵情ヲ過大視セル報告ハ未ク其ノ跡ヲ絶テス

將來一般ニ之カ警戒ヲ要ス

十、動員部隊ノ編成及訓練ニ留意シ以テ尙小隊長ノ素質及

能力ヲ向上シ部下ノ掌握統御ニ遺憾ナカラシムルヲ要ス

戦闘詳報第四號附録

昭和十二年
七月廿六日
歩兵第百五十聯隊鹵獲表

考	備	員数	區分	種類
	一 俘虜ハ射殺ス 二 戦利品ハ運搬材料ナシ爲燒却又ハクレークニ投棄ス	二	將校	俘
		四〇	准士官 下士官 兵	虜
			馬匹	
		二五	銃	戦
			砲	
		一〇〇〇	銃彈	利
			砲彈	
			器具	
			糧秣	

戰鬪詳報第四號附表

昭和十二年十二月九日 步兵第百廿聯隊武器彈藥損耗表(甲)

備考	計	其他	第三大隊	隊區		種類	
				號	分		
	2500	232	2268	銃	小	彈	
	2664	145	2519	銃	閉機輕		消
	4497	2190	2317	銃	閉機		
	45	45		砲	兵步射平	藥	
	40	40		砲	兵步式二九		損
				他	其	武	
				銃	小		器
				銃	閉機輕	彈	
				銃	閉機		藥
				他	其	失	
				銃	小		其他武器
				銃	閉機輕		
				銃	閉機		
				他	其		

